経　済　民　生　常　任　委　員　会　記　録

令和８年２月10日（火）午前９時58分～午前10時43分（第３委員会室）

○出席委員（７名）

委 員 長	斎藤　正臣
副委員長	山田　　裕
委　　員	佐藤　　勢
委　　員	尾形　　武
委　　員	小野　京子
委　　員	黒沢　　仁
委　　員	渡辺　敏彦

○欠席委員（１名）

委　　員	遠藤　幸一

○市長等部局出席者（なし）

○案　　件

所管事務調査「国際会議観光都市認定による効果・影響に関する調査」

１　行政視察に対する意見開陳

２　その他

午前９時58分　　開　　議

（斎藤正臣委員長）ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

遠藤幸一委員より本日１日間欠席の連絡がありましたので、ご報告いたします。

議題は、お手元に配付のとおりです。

初めに、行政視察の意見開陳についてを議題といたします。

２月４日から６日までの３日間、香川県高松市、愛媛県松山市、兵庫県姫路市の視察を行いました。高松市では、第２期高松市ＭＩＣＥ振興戦略、ＭＩＣＥ戦略の取組内容、ＭＩＣＥ誘致と開催の実績についてそれぞれ説明を聴取し、松山市では、コンベンション協会との連携、コンベンション開催の支援、ＭＩＣＥ開催地としての松山の魅力についてそれぞれ説明を聴取し、姫路市では、国際会議観

光都市認定、ＭＩＣＥ推進の取組内容、ＭＩＣＥ誘致の今後の取組についてそれぞれ説明を聴取し、アクリエひめじを見学してまいりました。

なお、姫路市の紙で配付された資料については、サイドブックスに保存いたしましたので、各自ご覧いただければと思います。

行政視察で聴取した各市の先進的な取組などについて、各委員からご意見をいただきたいと思います。お一人ずつ３市まとめてご意見をお願いいたします。

なお、ご発言の際には、この意見はどこの市に対しての意見ですというように、それが分かるようにお述べいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

では、渡辺委員から発言をお願いいたします。

（渡辺敏彦委員）お疲れさまでございます。３市に行ったわけでありますが、共通してお城があったり、歴史があったりというようなことで、年間を通じて来られる観光地なのかなということを感じてきました。

あと、ＭＩＣＥというか、会議があるときに補助金とか何かを出しているというのが共通しておりまして、その金額がどうのこうのというのはあるのですが、高い、低いではなくて、この前質問した中では例えば、会場費は会場費で取ってしまって、補助金は補助金で別に出すのだよという話があったのですが、最初から会場費を無料にしてみてはよいのでないかななんて思ったのだけれども、そういった設定の仕方もあるのかなと思いました。

これをずっと見て、我が福島市はどうなのだ。なってはみたけれども、うちのほうの観光って何なのだと考えたときに、春の花見山ぐらいしかないのかなと思っているのね。ここのところほとんどさっき言ったようにお城があったり、あと瀬戸内海があって自然に恵まれている。だから、自然と歴史があるところ、人口も40万、50万ぐらいいますから、通常の人の流れ自体が多いところで、活性化していて、施設を造るにも多分潤沢な予算があるのではないかというふうにも思われます。そういった中で福島市との比較の中でどうなのかなというような部分を感じました。ですから、福島市の、ＭＩＣＥ云々というよりも、観光振興をどうしていくかということを考えて、５年後、10年後にしっかりとＭＩＣＥ対応ができるような、さっき言ったように、花見山しかないのです。あとは四季の里か。というようなことで、本当にレベルの差を強く感じたところでありますので、指定を受けたわけでありますから、今後会議云々というよりも観光振興を、そういったことをしっかり考えていく必要があるのかなということを感じました。

以上、取りあえず。

（斎藤正臣委員長）ありがとうございます。まとめてでも結構ですので。

（黒沢　仁委員）視察中は大変いろいろお世話になりました。まず、３市に共通して言えたというような部分から申し上げさせていただくと、誘致体制の整備というようなことで、福島市がこういった誘致体制にまだ至っていないなということで、３市に共通なのですけれども、特に高松、市の担当、

そしてあとコンベンションビューローとか、あとは県の推進協議会といった３者が一体となっていわゆる情報収集とか情報の発信をしているといったことからいうと、福島市はまだまだ体制の整備がなされていないというようなので、もう少しいわゆる戦略的な部分の練り直しが必要なのではないかなという部分です。

あと、特に高松においては観光交流課のほうから東京事務所といった、やっぱり東京にそういった一つの事務所を置くといった、こういった取組も今後福島市においても国際観光といった部分からいうと設置の必要性も含めて検討の余地があるのかなといった部分です。

あと、渡辺委員も言いましたとおり、３者ともやっぱり市独自の強みがあると。高松にしてもサンポート、いわゆる太陽とか、あと讃岐といった、やっぱり独特の歴史であり、文化といった部分を３市ともある程度持ち備えていながら、いわゆるそういった強みをワンストップサービスといった部分で実施しているというような部分は、開催の検討から開催中あるいはその後も含めて、点でなくて、いろんな意味で支援体制が整っているというような部分を考えると、福島市もやっぱりワンストップサービスみたいな、こういった実施につなげるような観光戦略を練る必要があるのではないかということでございます。

あとは、特に松山市で質問したのかな、ミーティング、インセンティブトラベルといった部分で、やっぱり、地元の企業も含めて、こういった研修旅行の誘致なんかも経済効果を図る上で検討していかなくてはならないのかなといった部分で、やっぱり開催において一番必要な３要素というような部分からいうと、宿泊の場所あるいは会場、飲食といった３つのキーポイントを福島市においてももう一度練り直していく必要があるのではないかなと思っております。

福島市においては特に歴史とか文化とか、そういった特筆すべきような要素というような、そんな意味での強みといった部分は持ち合わせてはいないのですけれども、今回の研修でやっぱりこういった観光の資源として、当然地域の皆様方の協力も必要だというような、そしてその経済効果といった部分もちゃんとしっかり地域に落とされているのだよといったところで、地域の皆様方の深い理解を得ることも大切ではないかといった、そしてちょっと長くなるのですけれども、あとは福島市の強みでいうと、果物、そういった部分を観光といった中で企業とかエクスカーション、そういった身近な旅行にこういった農業分野の利用もちょっと付け加えると、福島の地域資源として、あるいは地域の強みといった部分が出されるのかなということです。

あと何かあったらまたしゃべらせてください。

以上です。

（佐藤　勢委員）視察お疲れさまでした。ありがとうございました。まず、最初に高松からの感想なのですけれども、ＭＩＣＥ誘致の中でのオプションパッケージですか、ここをしっかりと売りにしている大切さというところを感じました。福島としてもやっぱりこのパッケージをしっかりとつくっていくというのは大事だなというふうに思ったところです。先ほどからありましたけれども、福島市な

らではというところももちろん大切ではあるのですけれども、なければやはり近隣のところとしっかりと点で結んで､線にしてパッケージングしていくというのも大事だろうなというふうに思いました。会津若松でいえばお城というのがもちろんありますし、相馬であればやっぱり浜の観光というところももちろんそうです。そして、参考人招致でもありましたように、復興というところもありますので、原発からの復興というところも見ていただくというパッケージングも福島市でもできるのではないかなというふうに感じたところでありました。

次に、松山市なのですけれども、これも同じように連携というところがキーワードに私は感じたところです。７都市連携で広域に連携を組んで、全国をブロックごとに都市の持ち回りでうまくやっているとか、紹介してもらうとか、そういうふうなチームとして連携をしていくというところが大切になるだろうなというふうに思ったところが１点。

それから、やっぱりキーパーソンとなり得るような人をしっかりと押さえていく、学会でも何でもそうですけれども、やはりキーパーソンとしっかりと密に連携を取って、その人と結びついて学会や国際会議、そういったものを誘致していくというところが大切だろうなというふうに思ったところでした。そうなってくると、どうしても人数的なところ、市としてもやっぱりそういうふうないろいろなところとつながりを持たなければいけないので、そういった環境のところ、人員とか、そういうふうなところもやっぱり整備が必要になってくるだろうなというふうに感じたところでした。

最後、姫路市なのですけれども、アクリエひめじ、これはすばらしいところだなというふうに思って感じたところです。福島市が求めているもの全てがあるような施設だったので。ただ、ここまで大きく造るというのはなかなか今のところ難しいだろうなというふうに思いましたので、今後はどういう人をターゲットにとか、何を目的にしていくのか、そういうところはきっちりと絞って明確にしていく必要はあるだろうなと感じたところでした。

３市の報告としてはそういうふうな形になっています。

以上です。

（尾形　武委員）高松市、松山市、姫路市ともに国際会議観光都市としては大変歴史のあるといいますか、そういった意味ではコロナ禍では減少したのですけれども、またコロナ禍以前に戻ったということで、いろんなＭＩＣＥ誘致に関しましては先進地であるなと感じてきたわけでございます。

まず、高松市におきましては、やはり県と一体となってＭＩＣＥ誘致に取り組んでいるという姿勢で、そういった意味では県の施設、市の施設ありますので、やはり県と一体となって補助金の制度も大変充実して、国際会議、国内会議共々誘致活動に力を入れて、いろんな、コンベンション協会を立ち上げて、高松市と県と、そういった共同で第三セクターみたいなコンベンション協会で誘致活動に取り組んでいるということ、専門的な知見からそういった意味では大変進んでいるなと。やはり市と県が一体となって補助金も出しているということで、国際会議、国内会議をやる体制、システムが大変整っていたと感じました。

あとは、姫路市におきましては、何といいましても世界文化遺産の姫路城がありますので、姫路城はやはり世界的にも観光面でも大変興味のある施設、遺跡、歴史的なお城がある関係で、外国の人にも大変興味を持ってもらえるのかなと思っております。そういった意味では観光と一体となって、やはりせっかくその現地に世界から、または国内から会議ということで集まるものですから、やはり、会議だけで帰るということでなくて、その後いろんなバスを貸し切って施設巡りをするというのも、その土地を知ってもらう意味ではそういった体制もいろんな補助メニューが整っていますので、大変すばらしいことだなと。

あとは、姫路市のアクリエひめじは、令和３年供用開始ということで、資材高騰の前に268億円でできたということで、すばらしい施設を見てきたわけなのですけれども、ちょうど駅、市役所の近くにＪＲの土地があったということで、これも歴史的な遺産とともにこういった大きなコンベンションホールを造って国際会議を開ける、またいろんなイベントも開けるという施設があるということで、大変羨ましく感じてきたわけであります。

福島市にとっても駅前東口にＪＲ新幹線のすぐ目の前ということで、やはりコンコースと一緒にやらないと意味がないななんて思ってはきたのですけれども、せっかくＪＲと隣接しているものですから、そういった意味では通路の確保をするというのが一番キーポイントになりますし、あとはまた誘致活動に関しましても、福島市の場合は医科大学やら福島大学があるもので、そういった学術会議も大変多いということもありますので、やはりこういった施設も交流人口拡大のためには、そしてまた観光都市として雇用の創出にもなるものと思われますので、そういった整備も早くできればいいのかななんて感じてきたわけであります。

以上です。

（小野京子委員）視察は大変お世話になりました。思い出になる視察になりました。ありがとうございました。最初は高松市ということで、高松市のＭＩＣＥの振興戦略を策定されたことで交流人口、関係人口の拡大を目指しているのだということで､やっぱりいろいろ大変な戦略になりますけれども、交流人口も増えるためにこれはやっているところで、福島もなかなか減ってもいるので、今回、国際会議観光都市になったことでやっぱり交流人口ですか、そういうものが増やせるような内容が大事なのだなということを学んできました。

あと、取組内容ということで、交通アクセスとか、施設が駅前に集まっているということで、豊かな観光資源の強みがあり、その中で進められているのだなと感じました。

あとは、高松は連携がなっておりまして、高松市とかコンベンションビューローとか、そういう誘致体制にはやっぱりその施設との連携が大事だなということを学びました。

次に、松山のほうでは、やっぱりこちらも協会と連携がきちんとなっていたということで、松山観光コンベンション協会では業務を分けて、いろんなところで何はこの協会、市は何をやるかということを業務分担されているということで、そういうきちんとした体制を詳しく決めることも大事だとい

うことを学びました。

あとは、コンベンション開催の支援ということで、コンベンション開催の助成金の制度ということですね。宿泊の方の人数等でやるということで、ここは加算金のメニューが充実していたということで、ユニークベニュー活用、託児サービス加算ということで、外国の方が夫婦で来て子供さんを預けるということはここならではの支援、助成金の制度が入っているのだなということで、福島もこれから国際会議観光都市として、１つ託児サービスということをちょっと感じました。

あとは、ここでワンストップサービスということもありまして、地元、関係者と連携での伴走型の手厚いサポートということで、いろいろサービスも来た方々にやっていくということは必要なことだと思いました。

あとは、松山の魅力ということでアクセスのよさ、コンパクトシティとか、豊富な宿泊施設があるということで、福島も温泉とか交通も電車があったりとかあるので、そういう強みのところをやっぱり魅力を出して生かしていくようなことも観光都市の中では大事だなと思いました。

姫路では、コンベンション組織のほうで整備が整っていて、国際会議観光都市を認定されたということがありましたけれども、認定になった上での体制が大事だということを学びました。その中でプランをつくって実績を積み上げてきたということもあるので、大事な内容をプランとしてつくることも必要なことだなということを感じました。

あと、アクリエひめじはすばらしい施設で、こういう所が福島の駅にあったらいいなと思うのですが、なかなか大変だと思うのですけれども、多種多様に対応できる柔軟さ、イベントの新しいスタイルということで、多種多様、いろんなことに使える施設等がたくさんあってすばらしいなと思いました。

あと、共通している中でのことでは、やっぱりどこでもお城があったりとか、施設があったりということで、地域資源、またそういう福島ならではのものをこれから見つけて、それを生かせるような、そういう中で文化とか芸術とか、それを生かせるような観光の都市を目指すのが大事だなということを今回行って知ることができました。

以上です。

（山田　裕委員）大変お世話になりました。ありがとうございました。それで、今回の視察は大変実りの多い、そういう視察だったかなというふうに思います。それぞれの特徴をちょっと整理しますと、高松と姫路は駅前に大きな施設を造って誘致をすると、松山市はコンパクトシティということで、駅前ではなくて２キロ圏内に誘致するような、そういう包括的な取組を行っているということでは、それぞれの違いが今回の視察で改めて明らかになったかなというふうに思います。特に駅前開発という点では福島市も考えなければならない、そういう視点なのですけれども、高松市はあまりにも巨大過ぎるというか、サンポートエリアは新たなニュータウンができるような、そんな規模での施設ですよね。まだ建設途中のところもあるようなのですけれども。一方、姫路市は実際造って、それで今稼働

しているということで、稼働率も全体で65.8％ということでしたから、結構健闘しているかなというふうに思いました。

その中でちょっと後で資料を見て思ったのですけれども、スタジオの稼働率が96.9％なのです。スタジオって多分音楽や何かを練習する場所だと思うのですけれども、これは福島市でも需要が結構あるのです。なかなか練習する場所がないって私もいろいろ多くの人から聞いたことあるのですけれども、やはりこういう施設もしっかり整備することが必要なのではないかなというふうに思いました。

それで、姫路市の駅前の大きな教訓というふうに思ったのは、市民の利用を重視しているということだと思うのです。呼び込み型だけではなくて、市民が利用できる、そういう施設として位置づけているのだという説明もありましたけれども、我々が見学に行ったときも小学生があそこでお弁当食べるという、そういう気軽に寄ってできるという、やっぱりこれは強みといいますか、市民から歓迎されるのではないかと思うのです。ですから、駅前施設をこれから、日常使いというふうに言っていますけれども、やはりそういう立場で稼働率を上げていく、市民が参加できるような、そういう施設にしていくということを姫路の教訓として福島市でもやっていく必要があるかなというふうに思いました。

観光資源という点では、花見山だとか四季の里ばかりではなくて、３名湯があるのです。ただ、ちょっと離れているという、そういうのはあるかもしれませんけれども、今年開かれる国際会議は駅前ではなくて飯坂でやるというぐらいの、そういうよそから見れば魅力のある、そういう観光資源だというふうに思いますから、それをどういうふうに生かしながら福島市で誘致を勝ち取っていくのかというのがこれからの課題。

それぞれの自治体がやっぱり苦労しているなというふうにも思いました。しのぎを削っているというか、そういう状況がありますから、その中でしっかり再開発については、造ったからには稼働させるための努力を市民と共に進めていく必要があるということを今回の視察で学んだところです。

（斎藤正臣委員長）改めまして、視察のほうでは大変皆様にお世話になりました。どうもありがとうございました。皆様の意見をお伺いして、一々もっともだなというふうに思っていたところですが、私からは各市について１点ずつ本当にここは福島市として見習わなければ駄目だなというような、そういう強く感じたところを申し上げて、意見開陳を終わりたいと思います。

まず、高松市なのですけれども、経済波及効果をどういうふうに市民に示していくのかということ、本市においては観光庁が配付しているＭＩＣＥの経済波及効果簡易測定モデルみたいなものを使ってずっと皆様に、議会に対しても説明しているわけなのですけれども、高松市においては地域の産業連関表という、これは福島県でも作成しているのですけれども、地域の実態に合わせてどういった人が来るとどういうふうな産業にこの地域は波及するのかという、その地域モデルをそのコンベンションを利用した方からのアンケートを絡めてより実態に近い数値を出して議会や市民に説明している。なぜこの施設に、この観光に対して税金をこれだけ使うのかということを誠実にそういった説明をされ

ているというのは非常に私自身勉強になったというか、本市においてもそれは見習わなければいけないというふうに思いました。

松山市については、コンベンションビューローの体制が多分この３市の中で一番人数的には、人数だけ切り取れば非常に多かったのではないかなと思います。コンベンションビューローが３名、市の職員が３名で連携してやっているということなのですけれども､福島市においてはビューローが１名、市職員も１名、２名でやっているわけなのです。松山市においては、コンベンションビューロー高度化事業という国の事業を採択されて、ワンストップサービスというものを実現しています。もちろんこの人数があってこそだと思うのですけれども。小野委員からもありました現地のしつらえであったり、ボランティア、広報、設営、そういったものを伴走型支援して、さらに国際会議実績一覧から、佐藤委員からもありましたけれども、キーマンになる人、コミッティーであったりとかオーガナイザー、そういった方を抽出して営業に行くと。コンベンションエキスポ、ＩＭＥというコンベンションをする人たちとそれを受け入れる側が一堂に会すエキスポがあるのですけれども、そういったものにも出席するというわけなのです。それはやっぱりビューロー１名、市職員１名では、そんなこと絶対できないです。やっぱりここの人員の体制をしっかりと分厚くできるのかどうかということは非常に大きな問題だと思うし、これがなければどうしようもない、国際会議観光都市として機能しないと思うのです。そこの部分を改めて突きつけられました。

最後、姫路市なのですけれども、皆さんがおっしゃるように、アクリエひめじというのはすばらしい施設でした。それは間違いないのですけれども、使用料金をどういうふうに設定するのかというのは非常に大きな問題だと思うのです。アクリエひめじに関しては、市外の方と市内の方の料金を同一にしているのですよね。ほかの兵庫県や大阪府などの同様の施設よりも割安にしているという、こういう料金設定もあるのだなというふうに思いました。結果、市民利用が６割に迫っているというような、市民にも受け入れられているという施設なのです。市外の人たちが使うだけではないのだというところ。福島市はどちらかというと割と他都市の同様施設と同じような料金にして、市民利用の料金を下げているのかな、下げていないのかな。その辺もちょっと調べないとなのですけれども、山田委員からもありましたけれども、どういった方たちに利用してもらうのか、市民利用を厚くするならどういう料金設定にすればいいのかということは、これから議会も含めてまたいろいろと協議しなければいけないことなのではないかなという、以上３点が強く思ったところです。

さて、皆さん、何か言い足りないことがありましたら発言していただいて構いませんけれども、何かございますか。

（山田　裕委員）アクリエひめじの施設で感動したのは2,000人が入る劇場ホールなのです。しかも、音響設備が、ステージ自体は大きいのだけれども、催物やるときには壁が前に出てきて、それで音響をよくしているのだという、そういう説明があったのですけれども、あれだと生の声で演じる演劇だとか、あと音楽のコンサートだとか、そういったことがやはり出演する皆さんも気持ちよく、聴くほ

うもそうですけれども、そういう施設だなというふうに思ったのです。翻って福島市はどうなのかというと、結局コンベンションホールでということで、今後どれだけ利用上でうまく機能していくのかなという、そういうちょっと不安はありますけれども、やはりああいう施設こそが皆さんに歓迎されるのではないかなということをちょっと感想として思いました。

（尾形　武委員）アクリエひめじに関しましては稼働率が相当よくて、維持管理費も10億円くらいかかるのかなと思うのだけれども、利用料金で大体賄えるというのは理想的な施設になったのかななんて思っています。これを今後当てはめるというのはなかなか面積的にも予算的にも今となれば268億円の1.5倍はかかるでしょうなんて言っていましたので、400億円、500億円近くというふうな、今造るとなればかかるのかななんて思って、大変いいタイミングで造られて、こういった施設を利用できるというのは大変羨ましい限りだなと思って、そしてまた会議室なんかもいっぱいあって、いろんな分科会、やはり大きな会議室と分科会を行う会議室というのがセットでないとなかなか大変だななんて、そういった施設が好まれるのかななんて感じてきたわけであります。

大体そんなところで、劇場とコンベンション、２つ兼ね備えるというのは大変羨ましい限りで、福島の場合は残念ながらフレキシブルという両方一遍にやって、劇場型もできないというようなことになってしまいましたけれども、それはそれとして、大変いい施設を見せてもらったということで、よかったなと思います。

（渡辺敏彦委員）今もいろいろあって、委員長のほうからさっきあったように、市民利用が重要だ。国際会議なんかばんきりあるわけではないから。だから、その辺市民利用をしてもらうのもいいのだけれども、ただ二兎を追う者は一兎をも得ずという話に、うちのほうはどうなのかなって考えれば、今日は国際会議観光都市の話だから、ちょっとあれなのだけれども、外国から来て、市民がいっぱい集って、店屋があったりなんだりという施設でいいのかな。逆にパルセいいざかであればしっかりそれが専門でしょう。だから、そういう格好のほうがいいかな。二兎を追う者は一兎をも得ずにならないような形の中でしっかり対応する必要があるのかなという思いはしたね。

あと、郡山と比較した場合、郡山にビッグパレットがあるというのだけれども、あそこはやっぱり国際会議観光都市にはならないのだよね。歴史があんまりないし、自然もあんまりないような気がするのだよ。そういった意味からすると、やっぱり福島市はなったのだから、さっき言ったように、利用できる部分についてはしっかり利用しながら対応していけば、すぐにはどうこうではないけれども。

これは話外れるけれども、今度６月に飯坂のパルセでやるでしょう。だから、これが一つの入り口になって、外国からも来るのかな、全国なのかな。

（斎藤正臣委員長）海外からも来ます。

（渡辺敏彦委員）国際会議なのでしょう。だから、それで外国から来た人たちに認知してもらって、口コミで福島はよかったよ、例えば飯坂温泉に泊まって、飯坂の温泉はよかったよ、そういう口コミで出せるような、６月に向けての体制のつくり方というのは非常に大切だな。やっぱり口コミだと思

うのだ。どこだっけ。松山だっけ、何かに入っていると言ったの。別なところに入っていたの。よく答えられなかったけれども。だから、やっぱり来た人が福島はよかったよという話になれば、またあそこでやってみたいというぐらいの接待を、接待というか対応、おもてなしを。最初だから、400人だか600だっけ。400人だっけ。小さいけれども、それが２人、３人に話があると大きくなってくるのかなって思うから、その辺市のほうで考えてもらうように提言をできればなとは思います。

（小野京子委員）姫路のほうで開催支援メニューの参加者をおもてなしの心でお迎えするということで、駅とかに歓迎看板というか、だから福島の場合は福島駅とか飯坂駅のところにこういうことやっているという看板を立てるのもいいですし、あと観光施設の割引券を出して皆さんに観光地とか、そういうところを回ってもらう割引を出すことがメニューに入っているのですけれども、主催者と半々の補助の割合だということを聞いたので、やっぱりそこに行くまでにそういう私たちを歓迎しているのかという看板とそういう割引券もやって、本当におもてなししてもらっているのかなということですごく参加した方も喜ばれるのかなということで、一ついいなと思います。私たちも姫路城のファイルをもらってすごくうれしかったので、ああいうのが１枚でもあると、行って来たという一つの記念にもなって、心がうれしくなるかなと思うので。

以上です。

（尾形　武委員）補助金のメニューは歴史があるから、そろっているなという感じはしたのね。宿泊者に対して2,000円というようなところの相場なのかななんて思って、市内に宿泊すれば2,000円やりますよとか、企業のコンベンションの場合は1,000円とか、観光バス１台貸し切ったりすると５万円とか、いろんな補助メニューが完璧にそろって、やはり全国のコンベンション、ＭＩＣＥ協会みたいなのもあって、そこと提携しているということで、こういった補助メニューがそろったり、観光施設がそろったりすればやはり手を出したくなるよね。あとは、リピーターというか、今まで来てくれた人がまた来てくれるようなおもてなしも大事だななんて思ったわけであります。いずれにしろ市独自ではなくて、市以外との連携やら県との連携、こういった活性化といいますか、観光資源を有効に利用した国際会議ということで、大変歴史的にも、今までも実績があるものですから、すばらしいなと思ったわけです。

以上です。

（黒沢　仁委員）私の意見開陳に二言ちょっと付け加えさせていただきたい。おもてなしとしつらえ、以上です。

（斎藤正臣委員長）そうですね。そこは大事な視点だと思います。

また、補助金について皆様から言及あったので、ここもちょっと、我々後発なので、いろいろ参考にするところがたくさんあったので、やっぱり、ちょっとこの辺もまとめたほうがいいのかなと思うのです。高松市においては、スタートアップのときに補助金の上限なしにしたのですってね。あれは本当に議会をどうやって通すのだと思うのですけれども、もちろん１件当たりの上限はあります。１

件当たりの上限はあるのですけれども、年間を通して何件それで受け入れるのだという話で、普通3,000万円の予算を取ったら、その上限に達したら、あとは駄目ですという話になるのですけれども、別に補正でやったのか、手法はちょっとよくそこまで聞けなかったのですけれども、そういったやり方もあるのかなということです。

あとは、補助金については福島市も結構1件当たりの額は高いのです。多分300万円ぐらいやっていますよね。だから、あとは視察の補助金なんかもやっぱりありますので、割とやっているのですけれども、ではスポーツ団体に対してはどうなのかとかというと、またちょっとこれは違うみたいなので、この辺もちょっと改善が必要なのかなというふうに思います。

補助金について、皆さんこれはこうだったなみたいなところって何かありますか。特にないですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（斎藤正臣委員長）ありがとうございました。

ほかに何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（斎藤正臣委員長）ありがとうございました。

本日いただいた意見につきましては、正副委員長手元で内容を整理させていただきまして、調査のまとめの際にお示しさせていただきたいと思います。

行政視察に関する意見開陳は以上といたします。

最後に、その他についてを議題といたします。

委員の皆様から何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（斎藤正臣委員長）なければ、以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

午前10時43分　　散　　会

経済民生常任委員長　　斎　藤　正　臣